

おでかけウォッチャーでみる コンテンツコラボ企画のインパクト分析 ——佐賀県立博物館「忠吉から忠広へー集結！初代忠吉ー」× 『刀剣乱舞-ONLINE-』 コラボレーション企画を事例として

得能 万里奈

はじめに

2022年2月1日（火）から3月6日（日）まで、佐賀県立博物館（以下、同館）において同館のコレクション展「忠吉から忠広へー集結！初代忠吉ー」¹⁾が開催された。当展覧会は、情報発信プロジェクト「サガプライズ！」の一環として、PCブラウザ&スマホアプリゲーム『刀剣乱舞-ONLINE-』とコラボした企画である。当ゲームに登場する刀剣男士 肥前忠広

に所縁のある刀工・初代肥前忠吉の刀18口（ふり）などの歴代忠吉・忠広の作品が一挙に展示されることを記念し、キャラクターの等身大パネルの展示、コラボグッズの販売、スタンプラリーなど、様々な取り組みが実施された。

『刀剣乱舞-ONLINE-』²⁾（原作：ニトロプラス）は、これまで様々なメディアミックス展開や博物館・資料館等とのコラボ展示を実施し、多くのファンを生み出すとともに、地域や文化にも影響を与えてきたコンテンツである³⁾。九州地域（九州・沖縄・山口）でも2015年から2025年の10年間で23回（全国で実の17.7%）の刀剣展示コラボ関連が実施されてきた⁵⁾。今回取り上げる「忠吉から忠広へー集結！初代忠吉ー」もこの1つであり、本イベントが地域に新たな人流を生み出したことが想定される。そこで、本稿では、九州経済調査協会が運営する観光特化型の人流分析プラットフォーム「おでかけウォッチャー」を活用して、このイベントが展覧会の集客（観光人流）に対して、どのような影響をもたらしたのか、その実態について分析する。

「忠吉から忠広へー集結！初代忠吉ー」展覧会にて実施された取り組み一覧

- ・刀剣男士 肥前忠広の等身大パネルの展示（佐賀県立博物館3階の特別スペースと佐賀県立佐賀城本丸歴史館内）
- ・当キャラクター声優による展覧会音声ガイド
- ・展覧会オリジナルコラボグッズの販売
- ・佐賀県の名産品とのコラボグッズの販売
- ・宣伝隊長「おっさい こんのすけ」の1日館長・写真撮影会
- ・刀剣にまつわる特別展示を同時開催する佐賀県郷土コレクション企画展（佐賀県立博物館、佐賀県立佐賀城本丸歴史館、佐賀県立図書館⁴⁾）を巡るスタンプラリー
- ・近畿日本ツーリスト企画による佐賀県立博物館コレクション展「忠吉から忠広へー集結！初代忠吉ー」と『刀剣乱舞-ONLINE-』とのオリジナルコラボグッズ付き宿泊プラン

- 1) 佐賀県立博物館コレクション展「忠吉から忠広へー集結！初代忠吉ー」×『刀剣乱舞-ONLINE-』コラボレーション特設サイト <https://sagaprise.jp/hizentadaihiro-touken2022/>
- 2) DMM GAMESとニトロプラスが共同開発し、2015年1月にリリースした刀剣育成シミュレーションゲーム。歴史改編から正史を守るために歴史上の名刀を擬人化した「刀剣男士」を育成・編成し、敵と戦うという内容である。サービス開始から10周年を迎え、累計ユーザー数は1,300万人を突破し、女性を中心に多くのファンを生み出している
刀剣乱舞 ONLINE 公式サイト <https://www.toukenranbu.jp/>（2025年4月14日最終閲覧）
- 3) 2025年2月8日～3月23日（44日間）に栃木県足利市で開催されたコラボイベントでは約4万人が訪れ、その経済効果は5億円超えとされる。また、当作品に登場する刀の復元プロジェクトがクラウドファンディングにて2015年11月1日に開始され、最終的には目標金額550万円の820%となる約4,500万円の資金が集まった。なお、2016年4月の熊本地震で被災した阿蘇神社への復興支援も復元プロジェクトの目標として加わった
東京新聞「『刀剣乱舞』が火付け役！名刀「山姥切国広」の企画展、経済効果5億円超で幕 20回入館、感動で号泣の人も」
<https://www.tokyo-np.co.jp/article/394505>（2025年4月14日最終閲覧）
CANFIRE「壺丸伝説をもう一度！大太刀復元奉納プロジェクト始動！」
<https://camp-fire.jp/projects/289705/view>（2025年4月14日最終閲覧）
読売新聞オンライン「『刀剣乱舞』で大人気 よみがえった幻の宝刀」<https://www.yomiuri.co.jp/column/japanesehistory/20220209-OYT8T50046/>（2025年4月14日最終閲覧）
- 4) 佐賀県立図書館のスポットは本稿執筆時に使用したツールに登録されていなかったため、本稿では図書館との周遊に関する分析は実施していない
- 5) 九州地域では、福岡市立博物館（へし切長谷部、日光一文字、日本号）、九州国立博物館（日本各地の刀を期間限定特別展示）、玉名市立歴史博物館こころピア（同田貫正国）、那覇市歴史博物館（千代金丸、治金丸、北谷菜切）など、九州にゆかりのある刀の展示やコラボイベントが行われてきた。また2025年は九州国立博物館の特別展「九州の国宝きゅーはくのかたち」（2025年7月5日～8月31日開催）にて当コンテンツとのコラボ企画が開催予定のため、ファンの来訪が予想される

1 おでかけウォッチャーの概要

「おでかけウォッチャー」は、(株)プログウォッチャー(東京都中央区)が提供するスマートフォンアプリを通じて、利用者から明示的な同意を得て取得した月間約3,000万MAU(月間アクティブユーザー数)分の位置情報データを基に、全国各地の観光スポットへの来訪者数を推計し、週次更新による速報性の高い形で提供している。スポットへの来訪に加え、発地(推定居住地)・属性・旅程(日帰り・宿泊)・時間帯別の来訪者数、スポット間の周遊数等、幅広い観光データを提供している。

2 分析スキーム

本稿では、下記の手順で当展覧会における人流について分析を実施した。

- ・場所:佐賀県立博物館
- ・比較対象期間
 - ・2022年2月1日(火)～3月6日(日)(当展覧会開催期間、平日16日間、土日祝日12日間、月曜日は休館日)⁶⁾
 - ・2021年2月2日(火)～3月7日(日)(対前年同期)、平日15日間、土日祝日9日間、月曜日は休館日⁷⁾

・分析項目

- 1) 来訪者数
- 2) 来訪者層(属性:年齢・性別)
- 3) 広域集客力(発地)
- 4) 周遊行動(スポット間周遊・前後別周遊)
- 5) 宿泊誘発力①(宿泊・日帰り率)
- 6) 宿泊誘発力②(宿泊先)
- 7) 昼間平均滞在時間

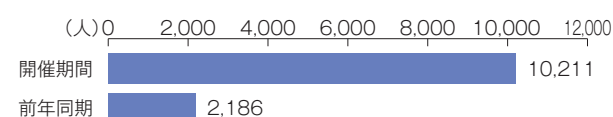
なお、集計対象となる来訪者の定義は、「スマートフォンユーザーの推定居住地から20km以上離れ、かつ位置情報ログ(5～15分間隔で取得)が勤務地ではない同一250mメッシュ内に1日2回以上記録された人数をカウント」したものである。

3 分析結果

1) 来訪者数

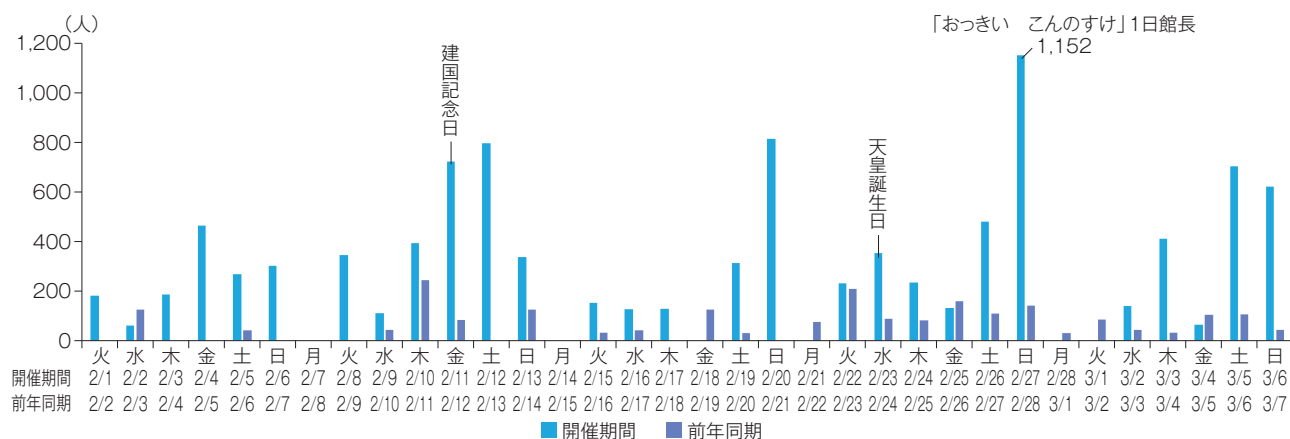
開催期間中と前年同期の来訪者数を比較すると、開催期間中は前年同期の来訪者数2,186人の約4.7

図表1 開催期間と前年同期の来訪者数



資料) 九経調おでかけウォッチャー

図表2 開催期間と前年同期における佐賀県立博物館の来訪者数



資料) 九経調おでかけウォッチャー

6) 当展示会の開催時には、新型コロナウイルス感染症の第6波(2022年1月1日から同年3月31日)による特別イベントの延期・中止などの影響を受けた

7) 平日、土日祝日における人流の変化を考慮し曜日に沿った対前年同期を採用している

倍の10,211人が訪れた（図表1、2）。これは2022年に同館で開催された他の展示の各期間と比較すると最多であった。

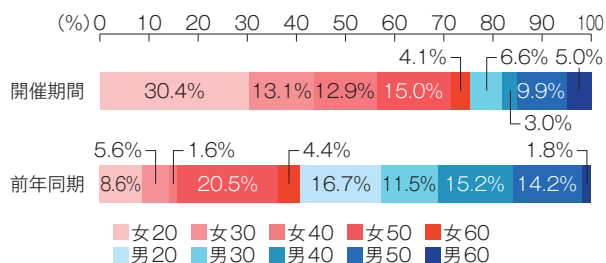
開催期間中の平日と土日祝日の来訪者数をみると、平日（16日間）で3,350人（1日あたり209人）が訪れ、土日祝日（12日間）では6,861人（同572人）が訪れた。また、開催期間中に来訪者数が最多となったのは、2月27日（日）の1,152人（全来訪者数の11.3%）であった。この日は、日曜日であることに加え、刀剣乱舞のPRマスコットキャラクター「おっきい こんのすけ」が1日館長を務め、写真撮影会を実施⁸⁾した日でもあったため、特に多くなったと考えられる。

以上から、コラボ企画によって来訪者数が倍増したこと、土日祝日・マスコット登場の特別イベントによって来訪者数増加に効果があったことが把握できた。

2) 来訪者属性（性別・年齢）

同館の来訪者属性について、前年同期と開催期間

図表3 開催期間中と前年同期の来訪者属性（性別・年齢）



資料）九経調おでかけウォッチャー

中の男女比をみると、前年同期は男性59.4%・女性40.6%であった一方で、開催期間中は男性24.5%・女性75.5%となり、女性が過半数を超え、男女比が逆転している（図表3）。

また、来場者の年齢層について、前年同期の上位は女性50代（20.5%）、男性20代（16.7%）、男性40代（15.2%）であった。一方、開催期間中の上位は女性20代（30.4%）、女性50代（15.0%）、女性30代（13.1%）で占められている。特に女性20代・30代の若年層は全体の43.5%を占め、前年同期の同世代（14.2%）の来訪者数の約15.3倍にあたる。もともと刀剣乱舞は女性ファンが多いコンテンツであるが、コラボイベントにおいても、女性（特に若年層の女性）の集客に効果があることがわかった。

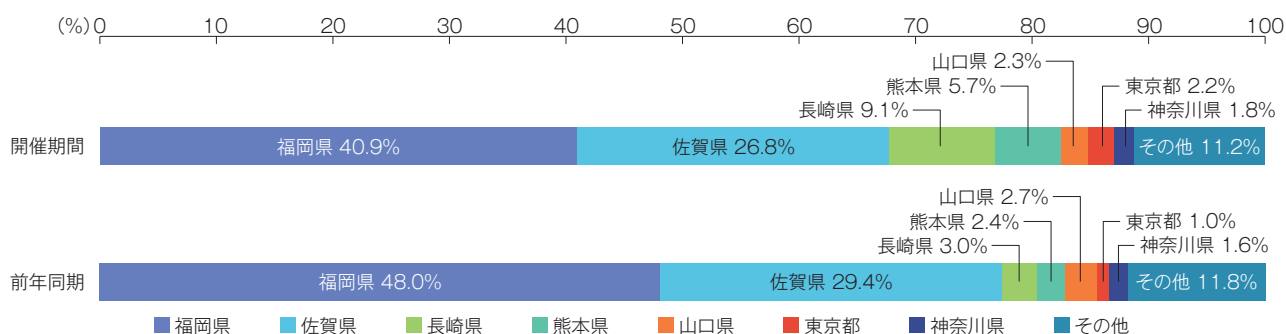
3) 広域集客力（発地）

前年同期と開催期間中の発地についてみると、前年同期・開催期間中ともに福岡県と佐賀県が多く、近隣発地率が高いといえる（図表4）。

注目すべき点としては、開催期間中は長崎県と熊本県からの発地率が大きく向上し、より広域からの集客していることだ。

前年同期と開催期間中の発地を「九州地域」「三大都市圏」「その他地域」で分類したところ、前年同期では「九州地域」が91.7%、「三大都市圏」が8.3%、「その他地域」が0.0%であるが、開催期間中では「九州地域」では87.2%、「三大都市圏」

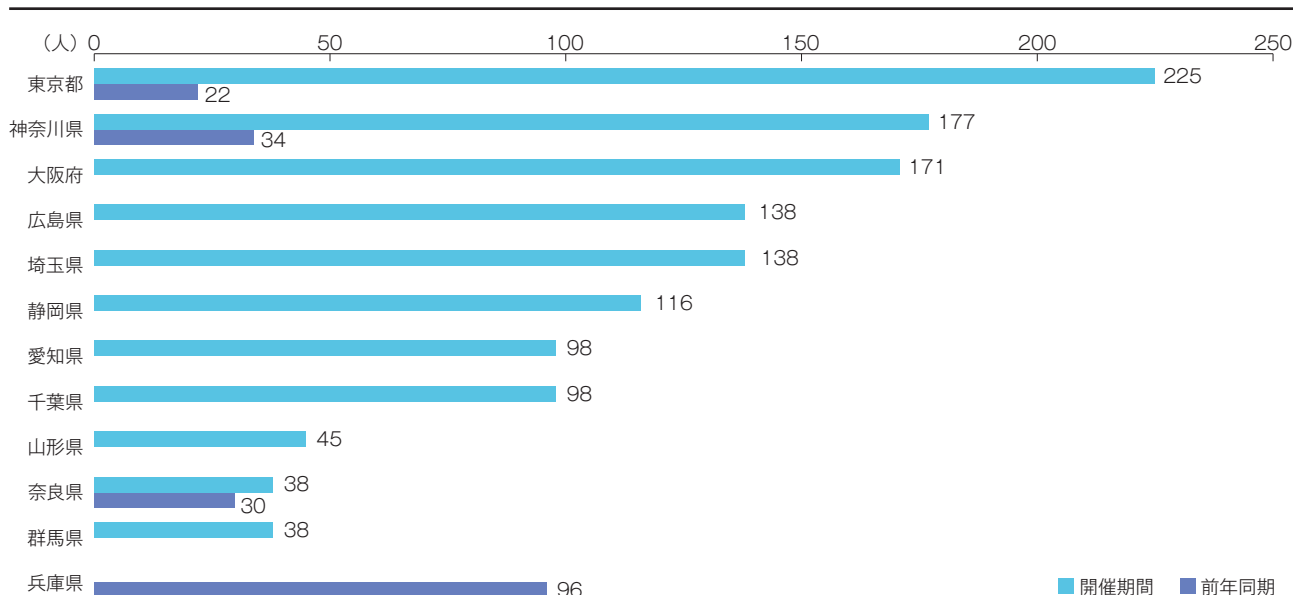
図表4 開催期間と前年同期における発地（都道府県別）



資料）九経調おでかけウォッチャー

8) 当イベントは2月5日（土）に実施予定であったが、コロナ感染症拡大防止のため、2/27（日）に延期された

図表5 開催期間と前年同期における発地別来訪者数（九州地域を除く）



資料）九経調おでかけウォッチャー

が9.4%、「その他地域」が3.4%となった。また、開催期間と前年同期の発地地域別来訪者数をみると、九州地域は前年の6,744人増、三大都市圏は同763人増、その他の地域では同337人増と、九州地域だけでなく、三大都市圏・その他の地域においても、開催期間の来訪者数が前年の来訪者数を上回っていた（図表5）。以上から、当展覧会は、広域からの集客力を有していたといえる。

4) 周遊（スポット間周遊・前後別周遊）

開催期間中に同館との周遊が最多となったのは、スタンプラリーの目的地の一つである佐賀県立佐賀城本丸歴史館（以下、本丸歴史館）との周遊で5,459人（全周遊者数の62.0%）であった（図表6）。これは、同館と隣接し、前年同期に最多の周遊先となっていた佐賀県立美術館との周遊者数762人（前年同期の全周遊者数の59.2%）の約7.2倍にあたる。また、前年同期の本丸歴史館の周遊者数423人（同32.9%）と比べると、約13倍となる。

開催期間中の前後別周遊をみると、同館来訪前に歴史館を周遊したのが1,539人（開催期間の全周遊者数の42.4%）に対し、同館来訪後に同所を周遊し

たのはその約2.5倍の3,920人（同75.6%）であった（図表7）。

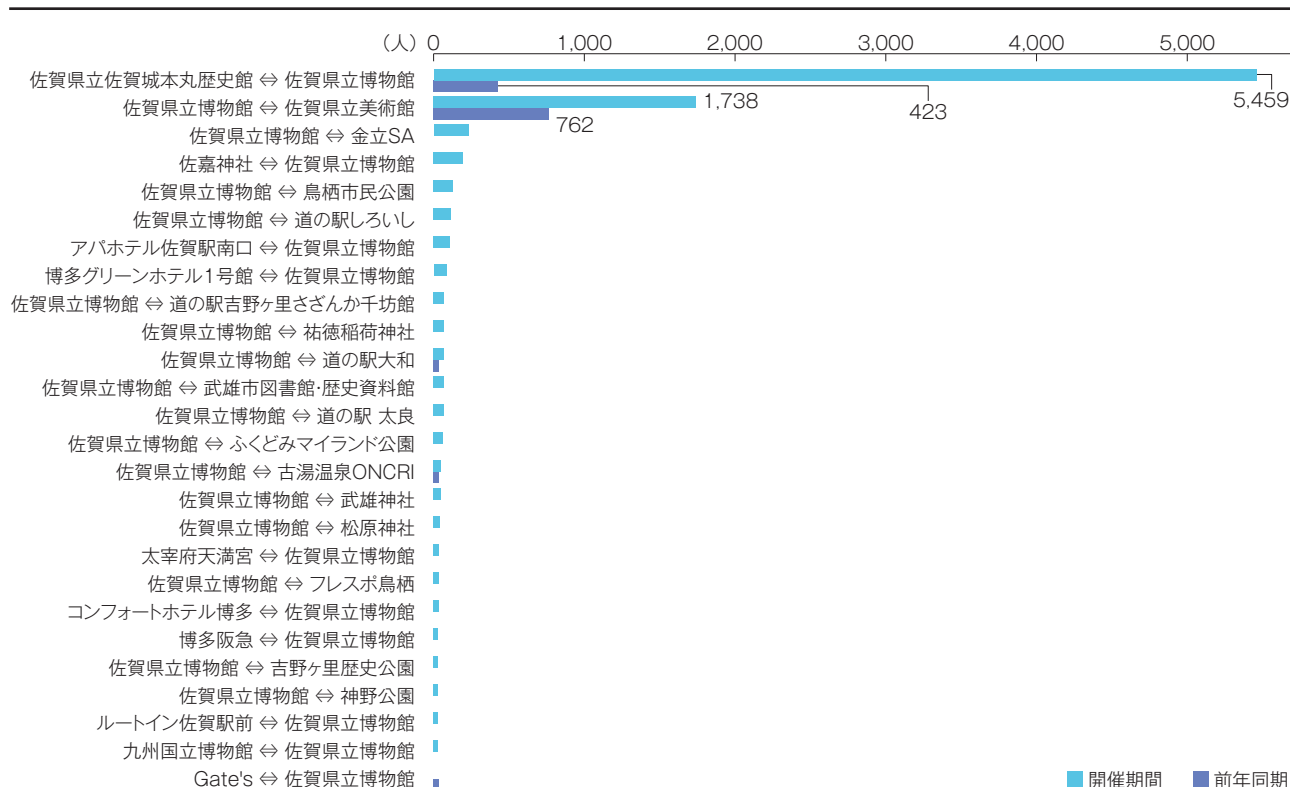
周遊者全体の傾向を見ても、同館来訪前の周遊者数は3,626人、同館来訪後の周遊者数は5,185人と、同館来訪後に本丸歴史館をはじめとする各スポットへの周遊が活発になったことが分かった。以上より、同館と本丸歴史館の周遊向上においてスタンプラリーの効果を把握できた。また、同館が域内の様々なスポットへの周遊の拠点になっていたことが分かった。

5) 宿泊誘発力①（日帰り・宿泊率）

前年同期と開催期間中の日帰り・宿泊率を比較すると、前年同期は日帰り率81.2%・宿泊率18.8%、開催期間中は日帰り率80.8%・宿泊率19.2%で、ともに日帰り率が全体の8割を占め、宿泊率を大きく上回っている（図表8）。

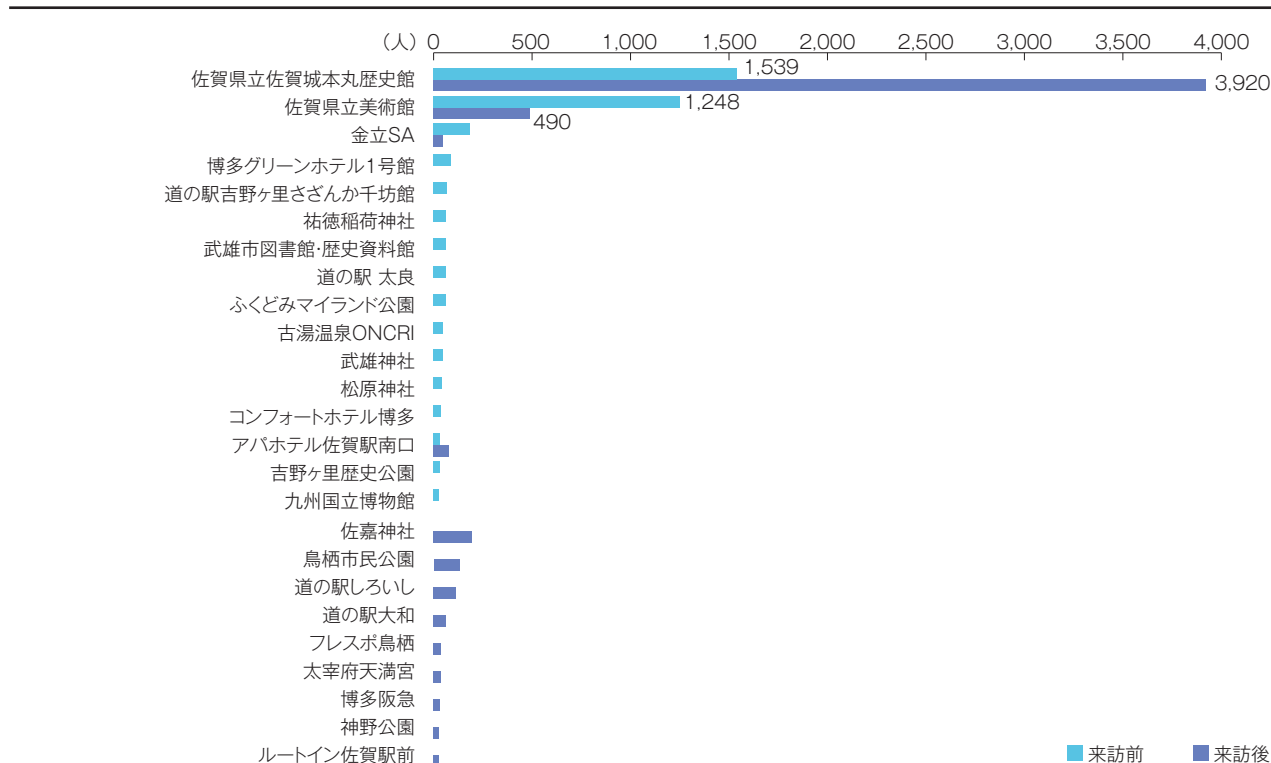
開催期間中における平日・土日祝日の日帰り・宿泊率をみると、平日は日帰り85.9%、宿泊14.1%で、土日祝日は日帰り78.3%、宿泊21.7%で、土日祝日の宿泊率は平日の宿泊率より高くなっていた。日別の推移を見ると、特に宿泊率が高くなっている日がある。2/12（土）（日帰り率60.6%・宿泊率39.4%）と

図表6 開催期間と前年同期における同館の周遊状況



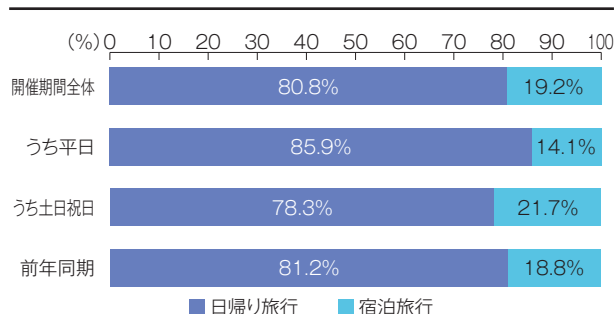
資料) 九経調おでかけウォッチャー

図表7 開催期間の同館来訪における前後周遊



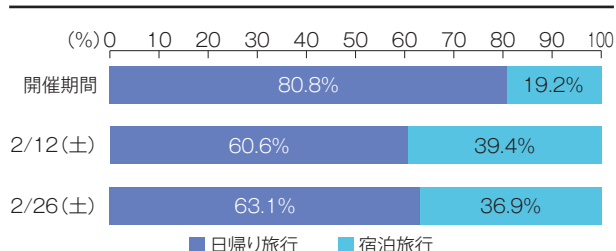
資料) 九経調おでかけウォッチャー

図表8 開催期間と前年同期の日帰り・宿泊率



資料) 九経調おでかけウォッチャー

図表9 開催期間中に宿泊率が高かった日



資料) 九経調おでかけウォッチャー

2/26(土)(同63.1%・同36.9%)である(図表9)。

前者は三連休の2日目であり、後者は、翌2/27(日)に「おっきいこんのすけ」の1日館長・写真撮影会など、特別イベントがあった。

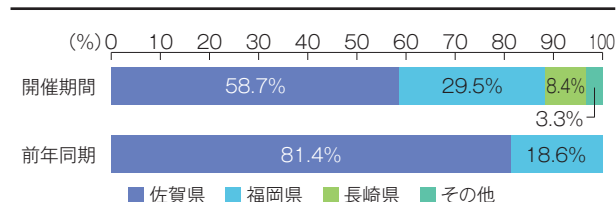
以上から、コラボ展覧会による来訪者数増加に併せて宿泊者が増加し、連休や特別イベントによってその前日に宿泊率が高まる場合もあることがわかった。一方で、開催期間中も日帰り率が全体の8割を占めており、地域での消費拡大という観点からは、宿泊の促進が今後の課題であることも把握できた。

6) 宿泊誘発力②(宿泊先)

主な宿泊先⁹⁾とその割合を見ると、前年同期は佐賀県81.4%、福岡県18.6%で、開催期間中は佐賀県58.7%、福岡県29.5%と、どちらも近隣地での宿泊比率が高い(図表10)。

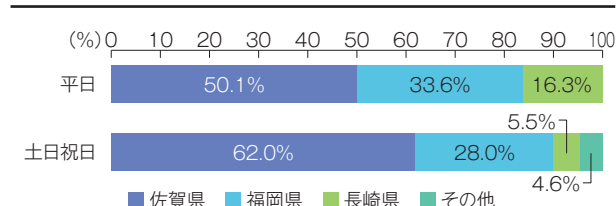
開催期間中の平日・土日祝日における宿泊先とその割合をみると、平日は佐賀県50.1%、福岡県33.6%、長崎県16.3%に対し、土日祝日は佐賀県

図表10 開催期間と前年同期の宿泊先



資料) 九経調おでかけウォッチャー

図表11 開催期間中の平日・土日祝日における宿泊先(都道府県別)



資料) 九経調おでかけウォッチャー

62.0%、福岡県28.0%、長崎県5.5%であった(図表11)。いずれも佐賀県・福岡県での割合が依然として高いものの、土日祝日の方が佐賀県での宿泊割合が11.9%ポイント高くなっていた。一方、平日は福岡県の宿泊率がわずかに高くなっていた。

以上から、前年同期と開催期間中、開催期間中の平日と土日祝日における主な宿泊先は佐賀県・福岡県の近隣地であることが分かった。一方で、嬉野温泉や武雄温泉など有力な観光滞在資源を活用し、福岡県など都心部への宿泊者の流出緩和や平日における宿泊の促進を図る余地があると考えられる。

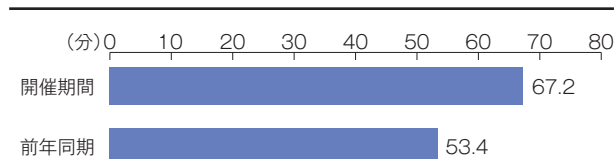
7) 昼間平均滞在時間

滞在時間について、開催期間の平均滞在時間は67.2分であり、前年同期の平均滞在時間53.4分より13.8分長かった(図表12)。展示品の鑑賞に加え、当イベントではキャラクターの等身大パネルの展示、コラボグッズの販売や展覧会オリジナルメニューの提供等もあったため、通常時よりも滞在時間が伸びたと考えられる。

また、開催期間中の平日・土日祝日の平均滞在時間を比べると、平日は72.6分で、土日祝日の64.6分よ

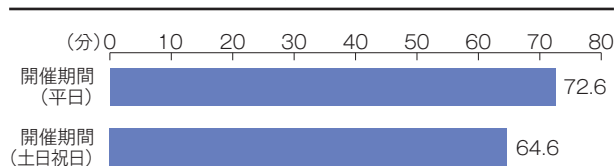
9) 宿泊先の来訪者数について、「来訪地別宿泊先」分析にて、旅程が「宿泊旅行(宿泊日)」の来訪者の宿泊先を集計・掲載している

図表 12 開催期間中と前年の平均滞在時間（分）



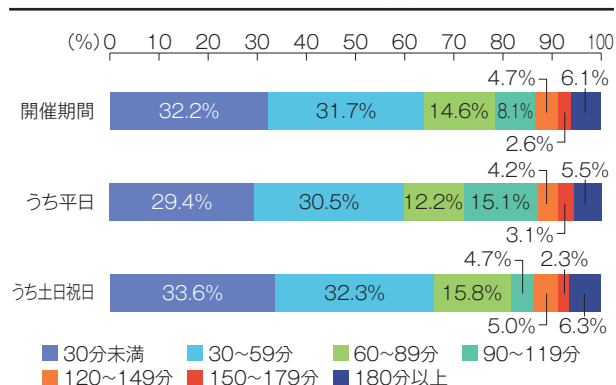
資料）九経調おでかけウォッチャー

図表 13 開催期間中の平日・土日祝日における平均滞在時間（分）



資料）九経調おでかけウォッチャー

図表 14 開催期間中の平日・土日祝日における時間区分別の平均滞在時間（分）



資料）九経調おでかけウォッチャー

りも約8分長かった（図表13）。さらに、開催期間の平日・土日祝日における時間区分別の平均滞在時間をみると（図表14）、平日では、30～59分の滞在時間（30.5%）が最多で、次いで30分未満（29.4%）、90～119分（15.1%）の順で来訪者数が多かった。一方、土日祝日では、30分未満（33.6%）が最多で、30～59分（32.3%）、60～89分（15.8%）の順で多かった。

時間区分別の平均滞在者数をみても、平日の90～119分の滞在者数は土日祝日の約1.6倍となっている。来訪者の多い土日祝日より、混雑が少ない平日ではより長い滞在が可能であったと考えられる。土日祝日の混雑を避け、来訪者の満足度を高める場合には、

平日の集客力の向上や、来訪日時の分散という視点も求められる。

4 まとめ

佐賀県立博物館で開催された展覧会「忠吉から忠広へ ― 集結！初代忠吉 ―」と『刀剣乱舞-ONLINE-』とのコラボレーション企画により、前年同期の約4.7倍の来訪者数増加、女性（特に20～30代の若年層女性）の来訪者数増加につながった。

また、九州地域全体に加え、三大都市圏を含む広域からの集客力を有していたことが分かった。

さらに、スタンプラリーのイベントからは、同館と佐賀城本丸歴史館をつなぐ周遊の活性化、同館を拠点とした地域周遊のきっかけとしての効果もみられた。

一方で、いくつかの課題も浮かび上がった。来訪者の約8割が日帰りである点や、佐賀県内でなく交通アクセスや宿泊施設の充実した福岡県に宿泊者が流出している点、平日の集客力の低さなどである。

これらに対して、コンテンツのストーリーと地域資源をうまく組み合わせ、例えば、地域観光とコラボ展示会を楽しめる宿泊パッケージプランの造成や、特別イベント日における宿泊先・周遊先のPR、平日の放課後・定時後の夜間鑑賞や平日・夜間限定の体験型イベント等の取り組みが求められる。

滞在時間の延長・宿泊の促進に資するようなコラボ企画によって、地域での消費単価の向上や地域のファン・リピーターの増加もより一層期待される。

高い集客力と地域との接点を持つコンテンツとのコラボ企画が、今後、九州地域の観光人流にどのような効果をもたらし、どのように拡大していくのか、おでかけウォッチャーによる分析を通して引き続き注目していきたい。

得能 万里奈（情報研究部 研究員）